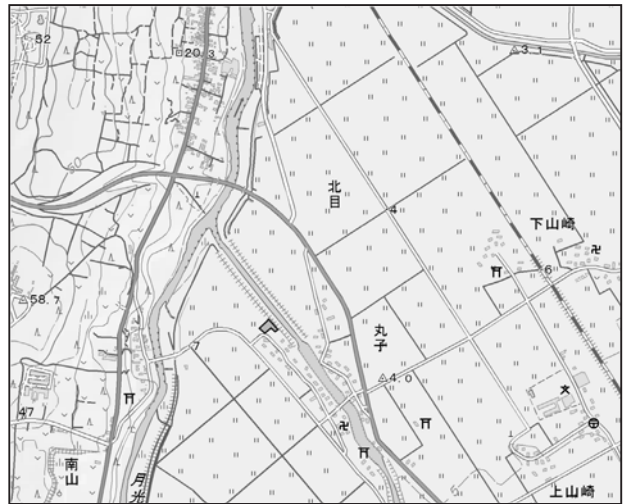


(2) 調査遺跡の概要

しもなかせ 下中瀬遺跡

遺跡番号 461-209
所在地 山形県飽海郡遊佐町北目字下中瀬ほか
北緯・東経 39度04分96秒・139度88分89秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
起因事業 日本海沿岸東北自動車道（酒田みなと～遊佐）
調査面積 590㎡
受託期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日
現地調査 平成29年6月1日～11月29日
調査担当者 齊藤主税（現場責任者）・植松暁彦・阿部明彦
調査協力 遊佐町教育委員会・庄内教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 奈良時代・平安時代・江戸時代
遺構 土坑・溝跡・ピット・堀跡・井戸跡・墓坑
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・木製品・古銭（文化財認定箱数：47箱）



遺跡位置図（1：25,000）

調査の概要

下中瀬遺跡は、遊佐町北端の丸子地区の畑地に所在する。庄内高瀬川左岸の自然堤防（微高地）上に立地し、標高は約3mを測る。遺跡は、日本海沿岸東北自動車道（酒田みなと～遊佐）の一部にあたり、関係機関の協議の結果、平成29年6月より発掘調査を行った。

遺構と遺物

○平安時代（約1,200年前）

今回の調査では、調査区中央部のS K 7・S K 25土坑で製塩土器がまとまって出土した。また、調査区東半部では現在の高瀬川と概ね直交や並行して幅約30cmの溝跡が数条並走し、畑の畝跡の可能性も考えられた。

出土遺物は、製塩土器の他に、9世紀前半頃の登窯で焼かれ灰色硬質の須恵器や、野焼きで赤褐色軟質の土師器の供膳具の坏類、蓋、煮炊き具の甕などが出土した。

○江戸時代（約300年前）

調査区中央部から幅約2.5m、深さ約1.2mの長大なS D 16・18堀跡が東西（高瀬川と同方向）に2条並走して発見された。また、両堀跡に直交してS D 29・33堀跡も南北に並走し調査区外に延びる。

これら堀跡からは、最下層などから漆器や下駄などの

木製品や中近世陶磁器が出土した。これら出土遺物の年代からは、概ね堀跡の埋没開始が江戸時代前半頃で、最上層は黄褐色土の人為的な埋土が認められた。堀の埋め立て後は、炭が充満するS K 20土坑やS E 31井戸跡が新たに構築され、概ね17世紀後半～18世紀前半頃である。

そして、この堀跡の西側には、調査区西端にS X 41溝跡としたコの字状溝跡、それを切るS K 22墓坑（炭が充満し古銭が複数枚出土）、小礫を充満するS K 28土坑などが単発で確認される。出土遺物やS X 41溝跡・S K 22墓坑の主軸がS D 16・18堀跡の方向とも共通し、概ねこれら堀跡やS K 20土坑・S E 31井戸跡と同じ時期のものと考えられる。

まとめ

今調査では、平安時代の9世紀頃の河川に隣接した集落の土地利用（畑跡や製塩土器）の一端がうかがえた。

江戸時代では、地形や字名から調査区南側に広がる屋敷地の存在がうかがえた。今調査区は、その北端部分にあたり、今後遺構の埋土などの理化学的分析は必要だが、堀跡で区画された屋敷地の外側にある祭祀場などの性格も推測された。

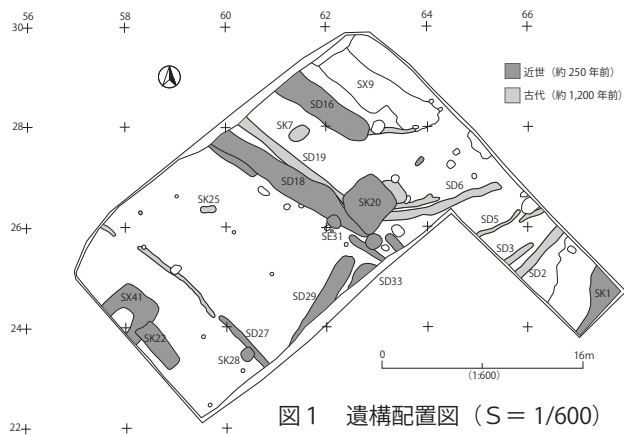


図1 遺構配置図 (S = 1/600)



写真1 遺跡遠景 (西より。矢印が調査区)



写真2 SK 17 土坑の精査状況 (北より)



写真3 平安時代の製塩土器



写真4 直交する堀跡 (北より。SD 16・18・29・33)



写真5 SD 18 堀跡の土層断面 (北から)



写真6 SD 18 堀跡の近世陶磁器出土状況



写真7 SX 41 溝跡・SK 22 墓坑の完掘 (南より)